

県内産酒米で飛驒の造り酒屋

放射能を自主測定

飛驒市古川町の老舗造り酒屋「渡辺酒造店」が、新酒用酒米に含まれる放射能を自主測定することを決めた。県内の酒造会社では初めてといい、同社のホームページで測定結果を公開

し、安全安心な酒造りをアピールする。

東京電力福島第一原子力発電所の事故を受け、放射能の有無を測定するため、同社は栃木県の環境測定会社からスウェーデン製の放

射能測定器1台を購入。農協から購入した県内産の酒米すべてを調査する。購入費は約50万円。

今月中旬、酒米が運び込まれるのに合わせ、従業員

を対象とした測定器の講習会を開く一方、同社のホームページで米の産地や出荷農家、放射能の数値などを公開し、安全な新酒をアピールする。

渡辺久憲専務は「県内産の酒米を使うので安全とは思いますが、使用する米の放射能の有無を測定して、自信を持って『安全で安全な酒』としたい」と話している。